

令和元年度 第4回理事会 議事録

- [1] 日 時： 令和元年12月18日(水) 午後6時00分～午後6時45分
- [2] 場 所： 東京都新宿区内藤町11番4 東京都立新宿高等学校 保護者控室
- [3] 出席者： 理事総数 9名(定足数5名)
- (1) 出席者 理事 6名 田中俊郎、加藤 隆、寺澤忠興、奥村直生、
岡野美幸、安藤直樹
- 監事 1名 宮山尚之
- (2) 同席者 事務局 1名 西出紀久
- [4] 議 案
館山寮再建の件
- [5] 審議経過及び審議結果
- (1) 代表理事田中俊郎が議長となり、理事会の開会を宣言する。
- (2) 第1号議案を別紙により田中代表理事が説明した。
- 主な質疑と意見
- ・来年度臨海教室は男子宿泊の代替案を再建委員会で検討してほしい。
 - ・来年までの再建の断念は大変残念であるが、現状ではやむを得ない判断であると思う。
- 議長が裁決を取った結果、満場一致で可決承認した。

午後6時45分、議長が閉会を宣言。

上記決議を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び出席理事が次に記名押印する。

以上

令和元年 12 月 18 日

一般財団法人東京都立新宿高等学校朝陽会 理事会

議長	代表理事	田 中 俊 郎	印
	理事	加 藤 隆	印
	理事	寺 澤 忠 興	印
	理事	奥 村 直 生	印
	理事	岡 野 美 幸	印
	理事	安 藤 直 樹	印
	監事	宮 山 尚 之	印

令和元年度 第4回理事会

令和元年度 第3回評議員会

令和元年 12月 18日(水)

一般財団法人 東京都立新宿高等学校 朝陽会

第1号議案 館山寮再建の件

1. 経緯

1) 第3回理事会 10月15日(火)開催

- ・ 去る9月8日(日)夜から9月9日(月)未明にかけて襲来した台風15号により、館山寮男子棟の屋根がすべて飛ぶなど甚大な被害を受けた。
- ・ 現在は朝陽水泳会などのボランティアの協力により、後片付けも進行している。
- ・ しかしまだ修復費用の見積もりができない状態であり、保険金支払金額も未定である。
- ・ 母校・保護者・朝陽同窓会が共に手を携え、来年の臨海教室が無事開催できるよう館山寮男子棟を修復したい。
- ・ ついては、PTAと朝陽同窓会に寄付を要請することとする。
- ・ 修復のために財団理事会内に再建実行委員会を編成し、被害状況の確認、修復計画の立案、保険会社との交渉、工務店の選定などについて、事務局を支援する。
- ・ まだまだ不安定要素が多く、修復までには以下の様な幾つかの懸念すべき点がある。
工事費の高騰などにより、資金が不足する、工務店が忙しく、工期が伸びる、など

2) 10月15日以降の取り組み

- ・ 10月16日(水) 母校の職員会議で吉村幹事長が被害状況を説明、協力を要請
朝陽同窓会代表幹事会で財団法人朝陽会の要請を受け、朝陽同窓会は館山寮男子棟の修復を支援することを決定した。
全朝陽同窓会会員に募金を呼び掛け、ゆうちょ銀行の他、銀行振込、クレジット決済も可能とする。
- ・ 10月24日(木) 財団法人朝陽会の中に再建実行委員会を設置した。
委員会のメンバーは下記の通り。

委員長	寺澤忠興 (S22) 財) 朝陽会業務執行理事
委員	岩崎洋平 (S38) 財) 朝陽会評議員、前PTA 会長、一級建築士
	鈴木仁志 (S38) 財) 朝陽会評議員、朝陽水泳 会副会長
	近藤正昭 (S38) 火災保険会社勤務
	原田将史 (S48) 一級建築士
アドバイザー	奥村直生 財) 朝陽会理事、現PTA会長 田久保裕之 (S52) 母校体育科教員

3) 再建実行委員会の活動

- 延べ6回館山地区に赴き、館山市役所、消防署等関係官公庁、石井工務店、鈴木工務店等館山地区工務店を訪問し現地事情視察及び意見交換を行った。
- また、原田氏は館山寮の模型を作成し、再建のアイデアを形にしていった。
- ・ 設計から工事完了までの参考全体スケジュール
 - ・ 設計と工事に関する全体の諸経費がある程度把握できる資料
- を基に、再建に向けての計画づくりの活動を行った。

2. 議案

1) 来夏の男子棟の再建は断念し、再来年の完成とする。

但し来年度は臨海教室の開催に備え、男子用風呂と便所の改修を実施する。

2) 男子棟の再建を再来年に延ばす理由

- ・館山地区の工務店で、厨房改修に実績のある石井工務店に、火災保険金請求のための再建見積もりを依頼したものの、当方が受領したのは11月30日までずれ込んだことによって、保険金請求が行うことが出来ずに、建設予算が立てられなかったこと。
- ・館山地区の工事業者需要がひっ迫して、そもそも工務店が責任をもって引き受けることが出来るか不透明。またそのために建築コストが高止まりしている。
- ・基本設計、実施設計に十分な時間が取れずに関係者が多い中で諸々決定していくことが出来るのかどうか。
- ・工期に余裕がないので、少しでも遅れが生じた場合臨海教室に間に合わなくなって、作業を急いだ意味がなく、中途半端な建物を作ることに成りかねない。
- ・通常のこの手の物件のスケジュールは、一年がかりのものであって、これから50年間持たせるようにするのは、設計に時間をかけたい
- ・建築基準法、消防法など建築関連法に合致させるためには設計段階で十分な時間をかける事が必要。

以上のような判断により、このまま突き進んで禍根を残すようなことはできないと、再建実行委員会として苦渋の判断をせざるを得なかった。

3) 男子の風呂と便所を来年改修する理由

- ・来夏の臨海教室は開催予定である。従って女子棟や食堂は改築を必要としないが、男子の風呂と便所は、日中の用と宿泊施設に風呂の設備が無いなどが想定されるので、確保せねばならず、緊急に改修が必要となる。
- ・当初は男子の風呂、便所も建て替えを検討したが、建設費用が嵩む為に改修とする。
- ・改修設計は事情が良くわかっている再建委員会の原田氏に委任して設計契約を締結し100万円を支払うこととしたい。尚、改修工事は900万円と仮計算している。

4) 本体工事

- ・全体スケジュールについて、再建委員会で再度引き直す。
その後、理事会の決定に基づいて、全体設計を発注、基本設計・実施設計を行い、完了後見積もり依頼する。

5) 今後の日程

- ・12月 朝陽募金目標増額キャンペーン開始
12月中に全同窓会員宛に趣意書を発送する予定
なおPTAは既に募金を開始
男子用風呂、便所改修についての設計契約を締結
- ・1月 朝陽同窓会代表幹事会に、同様の状況説明を行い、了解を取り付ける。
保険金査定が終了し、保険金が支払われると思われる。

男子用風呂、便所改修工事の見積もりを依頼する。

合わせて、男子寮解体の見積もりも依頼

昨今の建築費用は、オリンピック需要、度重なる災害復興需要のために高止まりしており、一坪当たりの単価は100万円を超えるということから、保険金額、再建募金、また100周年記念募金からの支払い能力を見定めながら建築予算を作成しなければならない、という課題がある。

6) 来年の臨海教室

- ・臨海教室の開催に向けて、別の宿泊施設、移動手段の確保などにつき朝陽同窓会、学校教職員と協同で検討する。

以上